

年三十六。

同國新川郡東岩瀬人夫 甚三郎
同年七月廿日於越後國筒場村即死。

加賀國石川郡田中村人夫 太右衛門
同年九月廿四日戰死於陸奥國大芦村年二十八。

越中國高岡大工中町 末友屋 甚三郎
同年九月廿四日戰死於陸奥國大芦村。

同國射水郡朝日村人夫 伊三郎
同年九月廿四日戰死於陸奥國大芦村年五十八。

同國礪波郡中野村人夫 彦三郎
以上人員惣計九十四人

此の後明治十年亂臣賊子の魁首西郷隆盛が、西南の亂に戰死せし兵士數名を合祀せられ、又維新前後殉難者共、明治二十四年九月十七日陸軍省の告示に據りて、舊金澤藩の藩士不破富太郎以下三十六名、是亦合祀せられたり。其の姓名如左。

不破富太郎 千秋順之助 大野木仲三郎
青木新三郎 小川幸三 福岡惣助

茶白山の傍なる一小峰に住し、庚申堂を建つ。庚申塚と稱する是なり。後塔婆を建つ。近歲其の邊を開拓し、菅公の祠を置く。といへり。平次按ずるに、従前金澤泉寺町玉泉寺附近なる三間道少林寺の向うに庚申堂と稱し、山伏圓教寺といふありしが、此の圓教寺由來書に云ふ。昔越前國の領主朝倉義景の家土堀左近正之といふ者あり。天正年中朝倉氏織田信長公の爲に没落す。此時堀左近虜と成り、尾州に於て入獄し居たり。然るに左近の母、義景の鎮守青面金剛尊を祈念する事甚切なりしに、其志願の靈驗なりしにや、庚申の夜數足の猿來て獄舍を破り去りたりけり。左近不思議に思ひ、竊に獄舍を遁れ出で、本國越前に立歸り、我が家に逼塞し居たりけり。然るに信長卿、明智光秀が爲に生害し給ふに依りて、世間廣く成り、剃髮して萬藏坊と稱し、彼鎮守なる青面金剛尊の像を負ひ奉り、加州へ立越え、茶白山に一字を造立して、彼尊像を安置せしに、城中の御目障に成る由にて移轉を命ぜられ、元和二年に泉野寺町へ移せり。今茶白山に庚申塚と稱する地、則ち其舊地也。と載せたり。大屋氏の加賀地誌略は、右由來書に據りて略記せ

駒井 躋庵 淺野屋左平 堀丈之助
堀井勇左衛門 河嶋素平 高松富吉
宮本義七郎 勘兵衛 龜吉
丹次郎 松原清右衛門 又右衛門
岸九郎右衛門 次助 甚三郎
次郎平 善助 六兵衛
市兵衛 長五郎 上山兵藏
高橋徳松 高橋宇三郎 惣七
藤田作兵衛 小林次郎七 後藤時之助
吉右衛門 北村和右衛門 清藏
右人々の小傳は爰に略す。

○庚申塚跡

今卯辰神社の傍なる地也。従前は庚申塚と稱して、山中にての高峰なりしかど、慶應三年嶺上を平均せし時、悉く取毀ち、今は其の遺跡もなし。

○庚申塚來歴

大屋愷の加賀地誌略卯辰山の條に云ふ。昔越前の領主朝倉義景滅亡の後、其の臣堀左近と云ふ者剃髮して、加賀國

しものなるべし。近く慶應三年卯辰山を平均せし時、庚申塚の土中より佛像を掘出せり。昔庚申堂の此の地に存在せし頃の遺佛ならんか。或は云ふ。此の佛像は従前城中廣式向より故ありて埋め置ける像にて、古佛に非ずともいへり。又庚申に猿の奇事ありし傳話は、ふるくある事にて彼是見ぬ、後醍醐天皇叡山行宮の時、猿集りて鐘をつきたるため軍衆會合し、敵を退けし事太平記に見ゆ。されば堀左近が尾州にて入獄せしを、猿共來りて獄舍を破れりといふも實事なるべし。

○勘兵衛塚跡

此の塚は、従前庚申塚の並びなる一峰にて、嶺上に石碑を建てたり。此の碑石は藩士由比勘兵衛の古墳なりしが、是も慶應三年嶺上を平均せし時墳墓を移轉し、今はその遺跡もなし。

○勘兵衛塚來歴

龜尾記に云ふ。藩士由比勘兵衛は國初以來の勇士なり。常に謂ひて曰く、我假令死しても猶君邊に仕へ、常に伺公せん事を欲す。若し死なば、願くは城中の能く見ゆるヶ所に